

本日も議論いただきたい主な事項（第8回）

○ICTを駆使した広域通信制高校と中学生向けフリースクールの事例をもとに議論した上で、第2次提言の策定に向けてこれまでの議論を振り返り、第2次提言に盛り込むべきコンセプト・キーワードを一度整理したい。

1. 広域通信制高校・中学生向けフリースクールの挑戦と可能性

- ① 個別最適化された自学自習環境と、ネット（オンライン）・リアル（通学）を融合させるPBL（プロジェクト型学習）環境を提供する事例から読み取れる、「未来の教室」（STEAM化・個別最適化される学び方）へのヒントは何か。
- ② 多様な人材と協働し、異分野の知を融合させて思考する学習環境が必要になる中、人口減少等によってそうした機会を生徒に提供できない地域も増えていく。全国各地の高校生がSTEAM化・個別最適化された豊かな学習環境で学ぶためには、従来の「全日制・定時制・通信制」「普通科・専門学科（農業・商業・工業等）」それぞれの有する長所が融合した、新しい学び方がありうるのではないか。
- ③ 「主体的で対話的で深い学び」を実質的に担保するためには、広域通信制高校の学習環境のエッセンスは、全国の高校生のみならず中学生以下の学習環境としても取り入れられるべき要素ではないか。

2. 発達に特徴のある生徒、ギフテッド（異才）を育む学習環境

- ① ギフテッド（異才）を発見して丁寧に育むという視点が意識されるべきではないか、こうしたアプローチを根付かせる必要はないか。
- ② 発達に特徴のある生徒やギフテッド（異才）が学校生活で一度傷つく経験をしたのち、多様性の認められる高校に入学してから漸く回復していくという迂遠なプロセスは、本人の人生のみならず社会的にも大きな損失。また、普通学級の中にも似た傾向の生徒が相当程度存在すると仮定するならば、本事例から得られる「未来の教室」へのヒントは何か。

3. 第2次提言に向けた議論（資料6）